

トントンの森 不思議ゲーム 答え①～④



ポイント① ふたまたの木の不思議

この木は、昔、人間が炭を作るために利用してきた木です。その証拠は根元で2本の幹に分かれていることです。木を切った切り株から2本の新しい枝が成長してこのように太くなったのです。幹を切られてもまた新しい命を成長させられるなんて、すばらしいですね。この木はコナラといいます。

答え【1】



ポイント② 一本杉の不思議

この木は約200年生きていると思われます。人間がこの木を切らなかったのは、山の中の目印にしてきたからです。目印になる木を決めることで、人間は自分の場所が確認でき、山での仕事を安心して行うことができたのです。名前を立山杉といいます。立山杉は富山県の県木になっています。

答え【2】



ポイント③ どの木も谷を向く不思議

これは、冬に積もる雪のしわざによるものです。

このあたりは3m近くの雪が積もります。細い枝先には、お相撲さん10人分もの重さがかかりますが、この木は折れないように地面に身を伏せて冬を乗り切ります。

枝が谷の方に向いているのは、積もっていた雪が斜面を滑るときに、引っぱるためです。また、この木は本当は寒さに強くない木ですが、雪の中に横たえていることによって、冬の寒さから身を守る仕組みを身に着けた木もあります。

答え【3】



ポイント④ ササの不思議

雪の中のササの葉は、冬でも枯れません。それは、雪が厳しい風や寒さからササを守るためです。しなやかな茎を持ったササは、冬の間は雪の下でたおれて過ごし、早春、雪がとけるとさっと起き上がります。

この時は、まだ周りの高い木は葉を広げていません。それで、低くても、ササの葉はたっぷり光を受け栄養のもとを作ることができるのです。

答え【3】

トントンの森 不思議ゲーム 答え⑤～⑧



ポイント⑤ 森の高い木・低い木不思議

植物にとって、光は栄養のもとをつくるのになくはないものです。高い木はたくさんの光を受け取れますが、低い木や草は、高い木の葉っぱの間を通してきたわずかな光しか受け取れないのです。でも、ご安心！植物によって必要とする光の量は違うのでそれぞれの高さでうまく生活しているのです。つまり、背の低い植物は、少しの光でも生活できる仕組みを持った植物といえます。また、高い木ほど、大きな体を支えるのにたくさん光が必要だともいえます。

答え【1】



ポイント⑥ ちょっとくらいスギ林不思議

ここはスギの林です。スギの葉はぶ厚く、1年中枯れないため、冬でも地面まであまり光がさしこむことが、ありません。だから、スギ林の下は暗く、生活できる植物の数は少ないのです。このスギは、昭和40年代に人間が苗を植えたものです。同じときに植えたのに、幹の太さがふぞろいですね。細いスギは「光のうばあい競争」に負けて栄養不足なのです。枯れ始めているものもありますね。

答え【3】



ポイント⑦ 片側のスギ不思議

片側に枝を出している木は、どれもスギ林の一番はしっこに生えていませんか？スギ林の中はとつてもくらいなのですが、その外側は、人間が作った道や広い葉っぱの林になっていてとても明るいところです。スギの枝は光を求めて明るい方に伸びていったのです。それは、スギに限らず、ほとんどの植物にできることです。さあ、スギのほかにも光の当たる側に枝をのびた木を見つけてみましょう。

答え【3】



ポイント⑧ 残された大木不思議

この木はクリの木です。この森のクリの木は、ほとんど太いものばかりです。つまり、人間はクリの木だけは切らずに大事に残してきたのです。どうしてでしょう？もちろん、それは大切な食料として、クリの実を利用してきたからなのです。このクリの木は約100年ほどたっていると思われています。ほかにもクリの大木がないか探してみましょう。

答え【3】